

小児科 研修期間 必修科目:4週 選択科目:4週単位

1 到達目標

厚生労働省の定めた到達目標にあわせて、各診療科で定められた到達目標を、当院のプログラムの達成目標とする。

頻度の高い小児疾患に適切に対応できるよう、プライリケアの基本的な診療能力を身につける。

(1) 必修科目

A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

B 資質・能力

全般的事項 以下の項目を達成すべく研修する。

- ア 地域医療を支える小児科医の役割を列挙し、参画できる。
- イ 小児栄養・保健の基本を理解し、栄養指導ができる。
- ウ 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- エ 母子健康手帳を理解し活用できる。
- オ 虐待について説明できる。
- カ 乳児健診、予防接種を経験し、小児保健について理解する。児童虐待への対応について理解する。

C 基本的診療業務

① 基本的な身体診察法 以下の全身にわたる診察を、短時間に、系統的に実施し記載できるようにする。

- ア 全身の観察。(バイタルサイン・栄養状態・精神状態の把握)
- イ 皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる。
- ウ 頭頸部の診察(咽頭及び扁桃を含む)ができ、記載できる。
- エ 胸部の診察ができ、記載できる。
- オ 腹痛時の腹部所見が触診でき、記載できる。
- カ 骨盤内の診察ができ、記載できる。
- キ 泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる。
- ク 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。
- ケ 神経学的診察ができ、記載できる。
- コ 精神面の診察ができ、記載できる。
- サ 下痢症では、便の性状(粘液、水様、血便、灰白色等)を説明できる。
- シ 咳の状態(湿性、乾性、喘鳴、レブリーゼ、など)を鑑別診断できる。
- ス 痙攣、意識障害のレベル判断と処置ができる。

② 基本的な臨床検査(経験すべき検査)

医療面接と身体診察から得られた情報をもとに、診断に必要な検査を指示し、その結果を解釈できるようにする。

- ア 一般尿検査
- イ 便検査
- ウ 血算・白血球分画
- エ 血液生化学検査
- オ 動脈血ガス分析
- カ 血液免疫血清学的検査
- キ 細菌学的検査
- ク 髄液検査
- ケ 単純X線検査

- コ 心電図
- サ 超音波検査
- シ X線CT検査(単純・造影)

③ 以下の基本手技が実施できるようにする。

- ア 気道確保と人工呼吸(バックマスクによる徒手換気を含む。)
- イ 注射法(皮内、皮下、筋肉)
- ウ 採血法(静脈血)
- エ 指導医のもとでの静脈確保による注射法(点滴、輸血など)
- オ 導尿法

④ 頻用される薬物の作用、副作用、至適投与量について理解し、薬物治療ができる。

さらに、薬剤師と協力して、患者や家族などに服薬指導できる。

⑤ 以下の緊急病態について経験する。

- ア 喘息発作の応急処置
- イ 脱水の診断と応急処置
- ウ 発熱の診断と応急処置
- エ けいれん、意識障害の応急処置
- オ 急性虫垂炎を含む急性腹症の診断と治療
- カ 誤飲・誤嚥の診断と応急処置
- キ 分娩立会い、新生児の蘇生

⑥ 以下の項目を達成すべく研修する。

- ア 小児の発達、発育に関する異常のスクリーニングができる。
- イ 小児科の一般検査の意義を理解し、結果の判断ができる。
- ウ 小児科治療に必要な基本的手技が行える。
- エ 新生児・未熟児の生理・疾患を理解し、基本的な管理ができる。
- オ 上級医に相談あるいは他科紹介の時機を誤らない。

(2) 選択科目

A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

B 資質・能力

C 基本的診療業務

NCPRを理解し、院内職員に対して指導することができる。

2 実務研修の方略

- ・ 研修期間は、必修科目として8週、選択する場合には基本的に4週を単位とする。
- ・ 主治医を含む指導医・上級医の指導のもとに、小児科医に必要な基礎知識と技術を習得する。
- ・ 急性期患者を指導医・上級医とともに受け持つ。
- ・ 研修医は常に指導医・上級医と行動を共にし、患者の治療方針の決定に参加する。
- ・ 入院患者の間診および身体所見の把握、予定されている検査や治療の適応や内容を理解する。
- ・ 受持患者の一般撮影、エコー、CT、MRI、髄液検査などの各種検査に出来る限り付き添い、手技および読影法を学ぶ。

- ・ 病棟で採血、血管確保、髄液検査などの手技を実践し習得する。
- ・ 各自で担当患者の回診を行い、病態を把握し適切な指示や処置を実施する。
- ・ 主に救急外来において、常に上級医の指導の下、初期診療にあたる。
- ・ 一般外来、乳児健診、予防接種については、指導医・上級医に陪席し学ぶ。
- ・ 毎週月曜日及び木曜日に病棟症例検討会を行う。
- ・ 月に1回、産科と合同で、周産期症例検討会を行う。
- ・ 毎週金曜日に抄読会を行う。

【週間予定表】

	午前		午後	夕方
月曜日	一般外来 病棟業務 新生児回診	病棟症例検討会 予定帝王切開立会	小児科一般外来及び病棟業務 小児科専門外来(4、10ヶ月検診)	周産期症例検討会 (産科と、月1回) 救急外来
火曜日	一般外来 病棟業務 新生児回診	医師・NICU看護師 連絡会	小児科一般外来及び病棟業務 小児科専門外来(1ヶ月検診)	救急外来
水曜日	一般外来 病棟業務 新生児回診	医師、病棟看護師 連絡会 予定帝王切開立会	小児科一般外来及び病棟業務 小児科専門外来(療育支援)	救急外来
木曜日	一般外来 病棟業務 新生児回診	病棟回診 病棟症例検討会	小児科一般外来及び病棟業務 予防接種 小児科専門外来(心臓/月1回)	救急外来
金曜日	一般外来 病棟業務 新生児回診	抄読会	小児科一般外来及び病棟業務 小児科専門外来(神経/月1回)	救急外来

※週1回午前に外来研修を行う。

※当番を決めて、救急患者への対応を行う。

- 3 到達目標の達成度評価** 判定 レベル1:指導医の直接監督下で遂行可能
 レベル2:指導医がすぐに対応できる状況下で遂行可能
 レベル3:ほぼ単独で遂行可能
 レベル4:後進を指導できる
 N/A:観察機会なし

(1) 必修科目

A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム) A1~A4は、EPOC2にて評価

B 資質・能力 B1~B9は、EPOC2にて評価

全般的事項 以下の項目を達成すべく研修する。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-B-ア	地域医療を支える小児科医の役割を列挙し、参画できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-B-イ	小児栄養・保健の基本を理解し、栄養指導ができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-B-ウ	周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-B-エ	母子健康手帳を理解し活用できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-B-オ	虐待について説明できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-B-カ	乳児健診、予防接種などを経験し、小児保健について理解する。 児童虐待への対応について理解する。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

C 基本的診療業務 C1～C4 は、EPOC2にて評価

① 基本的な身体診察法 以下の全身にわたる診察を、短時間に、系統的に実施し記載できるようにする。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-①-ア	全身の観察(バイタルサイン・栄養状態・精神状態の把握)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-イ	皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-ウ	頭頸部の診察(咽頭及び扁桃を含む)ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-エ	胸部の診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-オ	腹痛時の腹部所見が触診でき、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-カ	骨盤内の診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-キ	泌尿・生殖器の診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-ク	骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-ケ	神経学的診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-コ	精神面の診察ができ、記載できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-サ	下痢症では、便の性状(粘液、水様、血便、灰白色等)を説明できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-シ	咳の状態(湿性、乾性、喘鳴、レプリーゼ、など)を鑑別診断できる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-①-ス	痙攣、意識障害のレベル判断と処置ができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

② 基本的な臨床検査(経験すべき検査)

医療面接と身体診察から得られた情報をもとに、診断に必要な検査を指示し、その結果を解釈できるようにする。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-②-ア	一般尿検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-イ	便検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-ウ	血算・白血球分画	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-エ	血液生化学検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-オ	動脈血分析	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-カ	血液免疫血清学的検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-キ	細菌学的検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-ク	髄液検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-ケ	単純X線検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-コ	心電図	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-サ	超音波検査	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-②-シ	X線CT検査(単純・造影)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

③ 以下の基本手技が実施できるようにする。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-③-ア	気道確保と人工呼吸(バックマスクによる徒手換気を含む。)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-③-イ	注射法(皮内、皮下、筋肉)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-③-ウ	採血法(静脈血)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-③-エ	指導医のもとでの静脈確保による注射法(点滴、輸血など)	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-③-オ	導尿法	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

④ 頻用される薬物の作用、副作用、至適投与量について理解し、薬物治療ができる。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-④	頻用される薬物の作用、副作用、至適投与量について理解し、薬物治療ができる。さらに、薬剤師と協力して、患者や家族などに服薬指	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

	導できる。		
--	-------	--	--

⑤ 以下の緊急病態について経験する。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-⑤-ア	喘息発作の応急処置	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-イ	脱水の診断と応急処置	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-ウ	発熱の診断と応急処置	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-エ	けいれん、意識障害の応急処置	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-オ	急性虫垂炎を含む急性腹症の診断と治療	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-カ	誤飲・誤嚥の診断と応急処置	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑤-キ	分娩立会い、新生児の蘇生	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

⑥以下の項目を達成すべく研修する。

	評価項目	自己評価	指導医評価
(1)-C-⑥-ア	小児の発達、発育に関する異常のスクリーニングができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑥-イ	小児科の一般検査の意義を理解し、結果の判断ができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑥-ウ	小児科治療に必要な基本的手技が行える。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑥-エ	新生児・未熟児の生理・疾患を理解し、基本的な管理ができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A
(1)-C-⑥-オ	上級医に相談あるいは他科紹介の時機を誤らない。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

(2) 選択科目

A 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム) A1~A4 は、EPOC2にて評価

B 資質・能力 B1~B9 は、EPOC2にて評価

C 基本的診療業務 C1~C4 は、EPOC2にて評価

	評価項目	自己評価	指導医評価
(2)-C	NCPRを理解し、院内職員に対して指導することができる。	1.2.3.4.N/A	1.2.3.4.N/A

・研修医評価は、「小児科到達目標の達成度評価」と「一般外来到達目標の達成度評価」にて行う。

研修指導責任者 焼津市立総合病院 小児科 科長 熊谷 淳之